

# 呼気 NO 測定（一酸化窒素ガス分析装置 NIOX VERO）

このたび、喘息の診断や“気道の炎症状態“を評価する、新しい機器を導入いたしました。この機器では、吐いた息に含まれる一酸化窒素（NO）の濃度を測定し、気道の炎症状態を評価します。炎症の程度が分かれば、薬の投与量を増減することも可能なため、治療の効率化にもつながります。

## 喘息になると濃度が上昇します

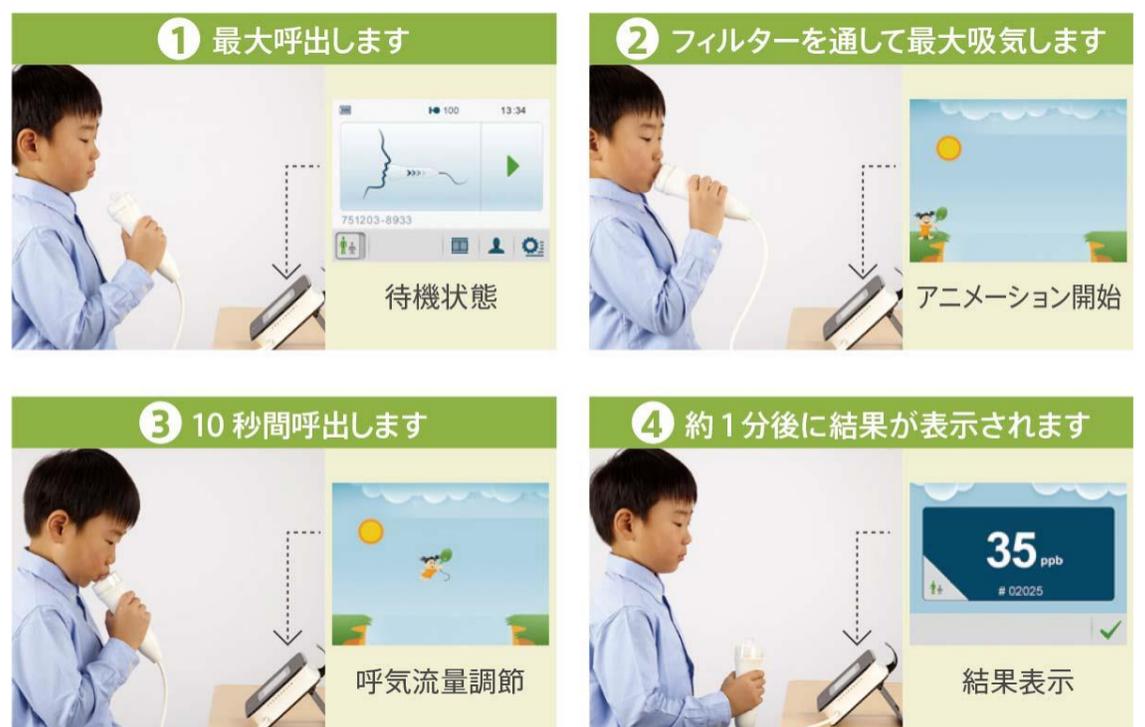
気道に炎症が起きると上皮で誘導型一酸化窒素合成酵素（iNOS）という NO を作る酵素が増えます。そのため吐いた息の NO 濃度を測ることで、結果的に炎症の程度を知ることができます。喘息患者さんの呼気中で増えるガスは NO だけではありません。一酸化炭素やエタン、ペンタンの濃度も炎症に伴って上昇しますが、これらは喫煙などが原因で肺機能が低下する慢性閉塞性肺疾患（COPD）でも同じように高くなります。一方、NO は喘息で特異的に上昇するため、慢性閉塞性肺疾患（COPD）と間違わずに診断が可能です。

## 検査は簡単

検査は6秒以上息を吹き込むだけです。風邪をひいた後は、咳だけが長引くケースが多く、患者さんの約30%は本格的な喘息に移行します。早期に適切な治療を始めれば移行の確率を下げられるため、ほかの慢性的な咳と鑑別できる呼気 NO 測定への期待は、大きく膨らんでいます。



検査時間は、測定開始から結果表示まで約1分30秒



## 料金

呼気ガス分析（呼吸器機能検査等判断料含む）

3割負担の方：720円、1割負担の方：240円



すがも北口内科クリニック